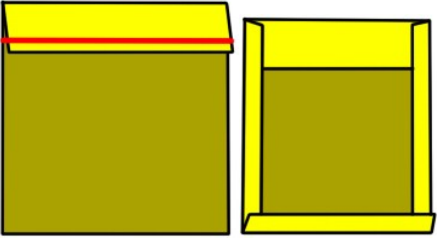
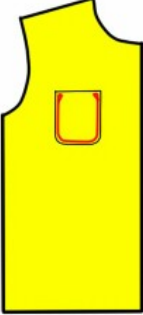
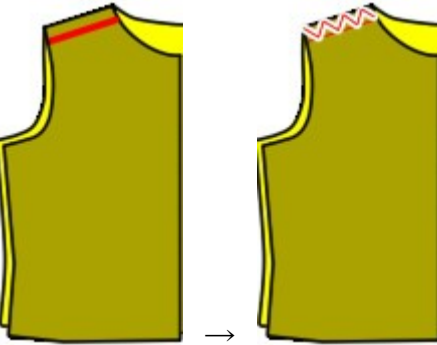
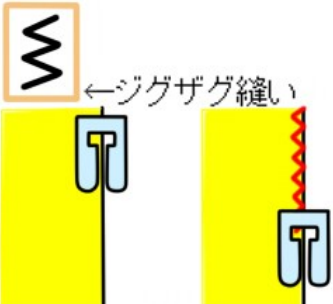
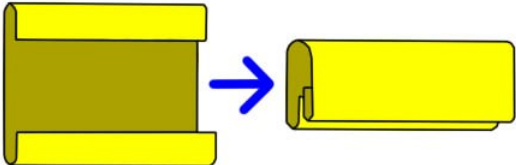
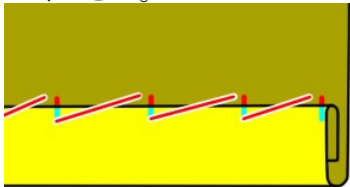
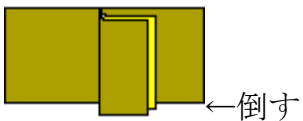


<p>■が裏 ■が表</p>	<p>ドールは小さいのですべて手縫いで縫っても大丈夫です。</p>
	<p>ポケット口の縫い代を裏に折りミシンで縫う。 横と下の縫い代をアイロンで裏に折り目を付ける。</p>
	<p>端から2~3mmの所を縫ってポケットを縫いつける。 端から5mm位の所をしつけ糸で手縫いしてから縫うと縫いやすいですよ。</p>
	<p>前身頃と後身頃の肩を表同士が内側になるように重ねて縫ってください 前後の肩を一緒にほつれ止めをしてください。</p>
 <p>↑は家庭用ジグザグ縫いでのほつれどめの仕方。</p>	<p>布の端が押さえがねの真ん中にくるように置く。 右側に針が落ちるときに、布からはみ出るようにジグザグで縫っていきます。 はみ出した部分が布の端を包んでくれてほつれない。 ジグザグ縫いだと厚みが出る場合や手縫いで作る場合はピケなどのほつれ止め液を付けるとよい。</p>
	<p>アイロンでカフスの縫い代を折って下さい。 さらに半分に折って下さい。</p>

	<p>そでの半分から下の両端の縫い代をアイロンで折って折り目をつけてください。カフスを裏にして重ね、縫ってください。</p>
	<p>カフスを下に折って下さい。真ん中をアイロンで折った折り目と逆に折って両端の縫い代を縫ってください。</p>
	<p>カフスをひっくり返して赤い線の所を縫ってください。</p>  <p>手縫いでまつり縫いしてもよい</p>
	<p>そでを身頃と表同士が内側になるように重ねて縫ってください。そでの縫い代はアイロンで身頃側へ折ってください。</p> 
	<p>そでのあきどまりというところから脇まで縫ってください。</p>

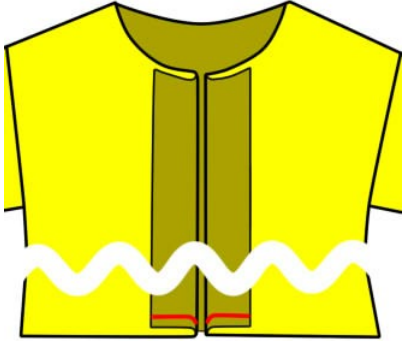
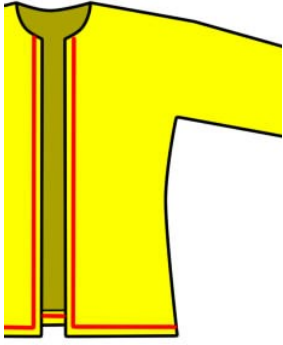

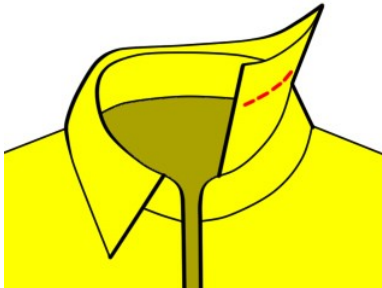

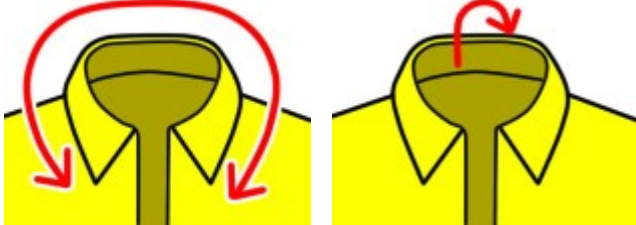

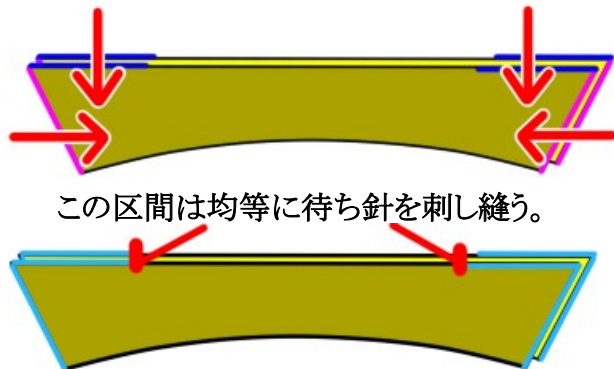
	<p>見返しを裏が見えるように折り、下の縫い代を縫ってください。</p>
	<p>見返しを裏に折って下さい。  すその縫い代も折って下さい。  アイロンなどで折り目をつけてから端から3～5 mmの所を縫ってください。</p>
	<p>台えりの裏側に隠れるほうの下側の縫い代をアイロンで2mmくらい狭く折っておく。1cmの縫い代だったら8mmくらいで。この2mmがミシンで縫ったとき縫い目がえりから落ちにくくなるポイントです。</p>
	 <p>どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいので、しつけ糸などで、裏に隠れる方のえりに印をつけておく。  完成したら抜くので玉止めなどはしなくてよい。</p>
 <p style="text-align: right;">図 1</p>	<p>えりのゆるみを作ります  このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブと首にそったカーブ(図1)があります。</p>  <p>外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。  その差を補うために2～3 mm表になるほ</p>

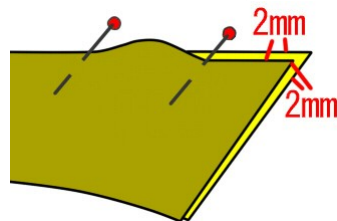


図2

う(外側に折り返すほう)を内側に入れ込んで、長さを調節する必要があります。これをしないと図2の右のえりのように長さの不足する表側のえりが引きつってえりの先がぴよこっとあがってしまうので注意が必要です。



えり先のゆるみの作り方



↑コレは人間サイズなのでドールなら1m m程度。  
このとき図Aのように「表に見えるほうのえり」(印の付いていない方)を1mm内側にずらしてまち針をさす。  
しわが入らないように、目打ちなどでダブ付いた分を内側へ押しこむようにして縫う。



シャツカラーの縫い方

衿(えり)を表が内側になるよう(中表)に二枚重ねて縫う。  
※衿に縫い付ける所は縫わない。

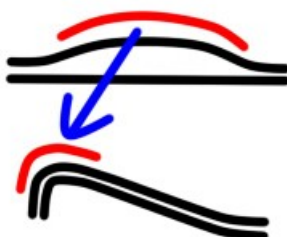
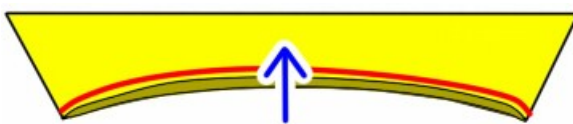
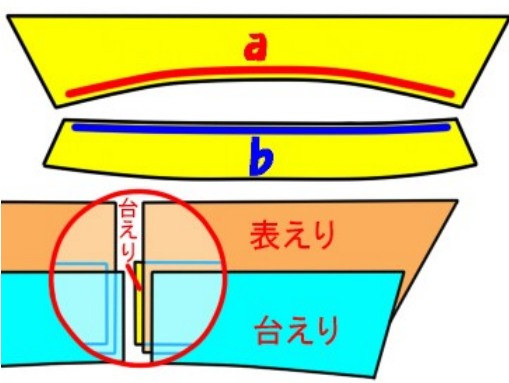
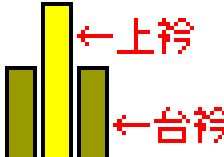
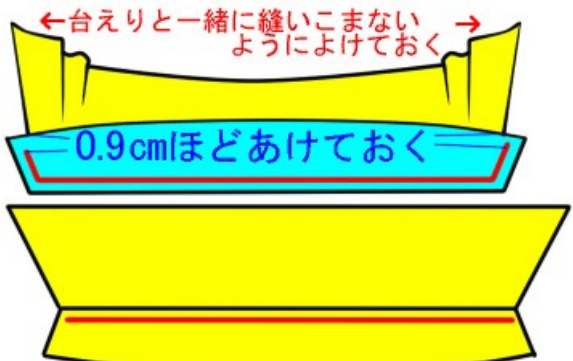
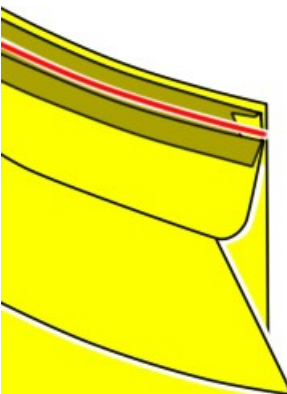


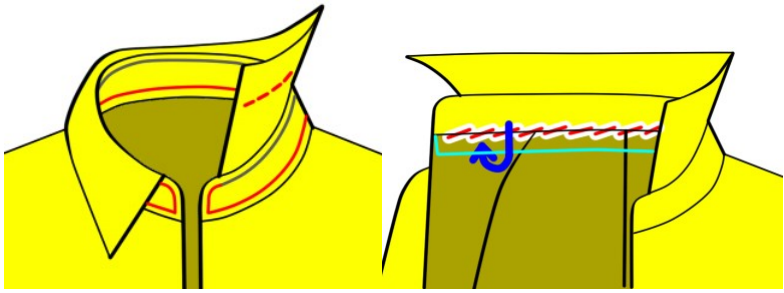

表に返して5mmの所に表から縫って(ストレッチ)固定する



印がある方へえりに付ける部分の縫い代を折る。この時えりがズレます。このずれが折り返

しの緩みになります。赤の矢印の方向のゆるみ。

 <p>断面図</p>	<p>こうすると図のように見える側のえり(印がないほう)が膨らみますが、実際えりにつけた時に、えりを折り返した時の布の厚みで相殺されて、えりがすっきりします。</p>
	<p>上で出来たズレを、そのままに端から0.5cmの所を縫う。</p>
	 <p>2枚の台えりで間に上えりを挟むようにして重ね、上の図の <b>a</b> と <b>b</b> の部分を縫い合わせる。</p> <p>ちなみに先に縫い代を折っておいた台えりは、表えりの見えるほうのえりへあわせる。</p>
	<p>間にはさんだ上えりの両脇を縫いこまないようによけておく。 台衿の両サイドも縫う。</p> <p>台えりの端9mmは縫わずにあけておく。表に返して縫い目から3mm(赤い線)の所を縫う。</p> <p>★柔らかく仕上げたいときは、上の赤い線は縫わずにアイロンをかけて形を整える。</p>
	<p>えりの端を前身頃の前中心に合わせる。</p> <p>しつけの印のある方のえりの縫い代だけ、前身頃のえり首に縫いつける</p>

	<p>縫い代を内側に折る。  仕付け糸で大まかに縫ってえりがずれないように固定する。  ミシンで表から3mmの所を縫う。  ★柔らかく仕上げたい場合は、縫い代を内側へ折り、手縫いでえりを閉じる。</p>
	<p>スナップボタンと飾りボタンを付けてください</p>

## 必要な道具

表生地、スナップボタン、飾りのボタン、糸

## このデザインに適した素材

### シーチング、ブロード

多くのお店で売られている薄い素材です。

シーチングは目が粗くやわらかく、ブロードは目が詰まっておりシーチングに比べ張りがあります。

両方柄も色も種類が多いです。

特に何もかかれていなければ、原材料は綿です。

### TCブロード

原材料に綿とポリエステルを使った生地。薄く張りがあり、綿100%に比べしわになりにくい

### 綿サテン

光沢のある衣装用のサテンではなく綿100%のサテンは、ほんのりとした光沢と、やさしい手触りの生地です。

色柄も多いが、お店によっては取り扱いのない所も。

ですが高級感のあるブラウスが作れます。